



## ティーベイション 株式会社

大阪市東淀川区東中島 2-8-8 ワークステーション新大阪 10F 1002

TEL 06-6324-7001

URL: <http://www.t-vation.com>

S P E C I A L I N T E R V I E W S

# 日本のものづくりをサポートする “技術経営”のエキスパート企業

技術経営サポートサービス、技術調査サービス、製造 IT 戦略サポートサービスなど、技術と経営という複眼的かつ総合的なコンサルティングを手掛けている「ティーベイション」。同社の馬場社長は長年培った豊富な経験と知識を活かし、顧客の継続的な発展を目指して、日々自己研鑽に励みながら業務に取り組んでいる。

吉沢 「ティーベイション」さんの業務内容からお聞かせ願えますか。

馬場 当社では、技術経営と製造 IT 戦略のサポートサービスを提供しています。「技術経営サポートサービス」「技術調査サービス」「製造 IT 戦略サポート

サービス」の3つを主幹事業とし、クライアントの経営戦略策定やその戦略に沿ったシステム構築をサポートしているんですよ。これまでのコンサルティング会社には、技術を核にしたものと、経営の視点から支援するものと2種類がありました。つまり、技術関連はこちら、経営関連はあちら、と、クライアントはそれぞれに相談を持ちかけなくてはならないことが多かったのです。そこで私は技術と経営の複眼的で総合的なコンサルティング会社をつくらうと考えました。それが当社「ティーベイション」です。当社は、分かりやすく申しますと、クラ

イアントに対し、持てる技術を経営面にいかに活かしていくかを考え、適切なアドバイスやサポートを提供する会社。MOT（技術経営）実務経験者としての強みを活かし、中小企業経営者の皆さんを力強く支援したいと考えております。吉沢 なるほど。では、「ティーベイション」さんをはじめられたきっかけは何だったのでしょ。

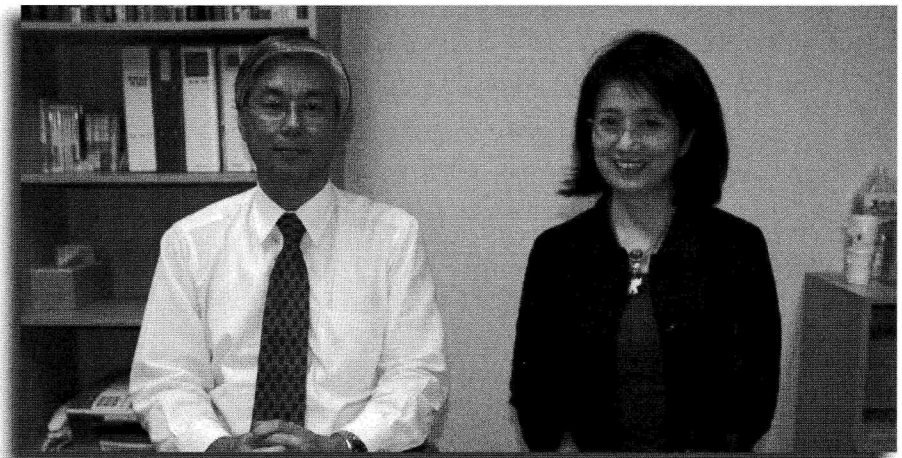
馬場 私は大学院卒業後、三菱電機に入社し、工場の自動化システムやオートメーション化の開発分野に配属され、工業用マシンや産業用ロボットの“頭脳”となるコンピュータを開発していたんで

「専門分野を、私にも分かりやすく説明して下さった馬場社長。技術畑でのキャリアと、経営学の豊富な知識を活用し、さらに新しいものにチャレンジしていこうとされる姿勢は素晴らしいですね。今後も多くの企業経営者にとってのベストパートナーとしてご活躍下さい。応援しています」



GUEST INTERVIEWER

ゲスト 吉沢 京子



代表取締役・MBA（経営学修士）・ITコーディネータ

ばんば  
**馬場 孝夫**

### 今日までの馬場社長の歩み——

大阪大学大学院基礎工学研究科修士課程修了後、三菱電機に入社。25年間一貫して生産システム分野に携わり、多くの研究開発を手掛けてきた。50歳を機に退職し、同志社大学大学院ビジネススクール修士課程に進む。MBAの資格を取得し、2006年、「ティーベ이션」を設立した。

す。世界に誇る日本のものづくりを支えているという自負を持ち、製造業界の根幹に携わるとてもやりがいのある仕事でした。当時の経験は私にとって大切な財産となっています。工場の自動化における高い専門性は、現在の事業の礎でもあるんです。かねてから50歳を機に自分で何かを手掛けてみたいという思いを抱いていました。そこで、これまで培った経験に知識を肉付けすべく、ビジネススクールに通いMBA（経営学修士）を取得するために会社を退職したんです。長年技術畑を歩んできましたが、経営学を学ぶことにより、ものごとを経営という視点から分析することができるようになりました。そして、当社を設立したんです。

吉沢 なるほど。これまでを振り返られて、いかがですか。

馬場 やはりスタート当初は仕事がなく大変でした（笑）。でも私は、サラリーマン時代の人脈や、ビジネススクールでの出会いなど、人に恵まれていたんです。そういったネットワークの中から

ご紹介いただけるようになり、一つひとつの仕事に対し、誠実かつ丁寧に取り組むことで実績を積みました。

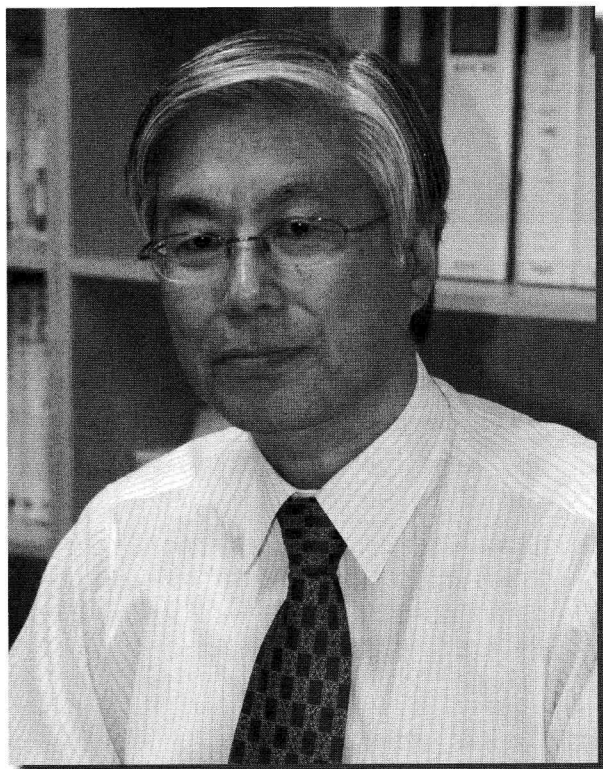
吉沢 コンサルティング業務などは特

に、人間対人間のつながりが大切になるお仕事ですね。お仕事の上で心がけていらっしゃることは何でしょう。

馬場 ハイタッチ（人間的な触れあい）ももちろん必要なのですが、それに加えてインターネットも重要なツールだととらえています。これからの時代はますますインターネットの世の中になるでしょう。人的ネットワークとコンピュータネットワークを活用し、新しいニーズに 대응していけたらと考えているんですよ。

吉沢 何か構想があたりで？

馬場 現在、MES（製造実行システム）の領域にもチャレンジしたいと考えているのです。MESとは、簡単に申しますと、工場用の機器と企業の基幹情報システム



をつなぐことによって、効率的に経営を改善していこうというもの。これを取り扱っているコンサルティング会社は、日本にはまだ少ないと思いますし、クライアントのニーズも徐々に増えていますから、当社が先駆けて取り組みたいと考えています。

吉沢 お話も尽きませんが、最後に今後の展望をお聞かせ下さい。

馬場 “驚馬十駕”という荀子の言葉があります。遅い馬でも時間をかければ目的地に到達できるという意味。当社は、たとえ遅くとも、一步一步堅実に歩み続ける企業でありたいと思います。

吉沢 益々のご発展をお祈りします。

（取材／2007年9月）

## 名論卓説 日本全体の競争力強化に貢献したい

▼日本における製造業界の悩みは深い——2007年問題に伴う技術の継承に関する問題や、人材確保の問題、製造拠点と国内技術の海外流出問題など……戦後の日本を力強く引っ張ってきた“ものづくり大国・ニッポン”が崩れはじめていとも言われている。そんな中、「ティーベーション」の馬場社長は、日本全体の競争力強化のために役立つと力強く歩み続けている。「国内における技術の空洞化が懸念されていますが、その流れの前で踏みとどまり、何とか日本独自のやり方と模索

している企業が多いのもまた、事実なんです」と社長は語る。日本のものづくりにはその技術力の高さだけでなく、仕事に対する姿勢やこだわり、職人たちの心意気など美点が多い。そんな日本のものづくりを支える中小企業を、馬場社長は応援し続ける。

▼「歩みは遅くとも、堅実に成長を遂げられる会社でありたい」と語る馬場社長。「ティーベーション」は、小粒ながらもキラリと光るその輝きで、クライアントの歩むべき道を照らし続けるだろう。